

家族は個体維持と種族保存の交点にあり、人間(とりわけ子供)が生きていくために必要不可欠のものである。第1回ではニューギニア高地人の家族を見た。そこでは夫婦別棟で就寝し、夫婦の営みは畑で行われていた。未婚、既婚を問わず、女性が両親や夫によって最大のもてなしとして客に提供される社会である。しかも、両村合意の略奪婚が行われている。

今回取りあげた遊牧民のマサイ人は、やはり西洋人とは大きく違った生活をしている。若い戦士が若い女友達をたくさん持つことから、マサイ人の男女関係は乱れていると西洋人たちはみなしている。永松真紀は「私の夫はマサイ戦士」のなかで次のようにいう。

「一番女の子にもてるのもこの時期(成人式以前の若い戦士時代)です。(中略)彼らの中には親公認のガールフレンドを何人か持つ戦士もいます。彼女らの多くはまだ胸が膨らみかけた、初潮を迎えていない10~12歳の少女たちですが、驚くことに、性交渉までしているというのです。時には成長が早く妊娠し出産までする少女もいるようですが、その場合は両親の子どもとして育てられます。

下級青年期なら、たとえ結婚していてもガールフレンドを持つことは問題ではなく、奥さんのいる家にそのガールフレンドを連れてきて、性交渉をすることもあるのだそうです。それでも妻はなんとも思わない。それが下級青年期の伝統だからだと言うのです。」P87

マサイ人は白人女性に対して「白人の女は決して長い間男なしじゃられない」と思っていると、コリンヌ・ホフマンは「マサイの恋人」のなかで書いている。白人女性たちは観光に来てマサイの男を買っているから、上記のように言われるのだろう。

悪評高い女子割礼は置くとしても、マサイ人たちの家族はどのような集合基準をもっているのだろうか。嫉妬心をめぐって、永松真紀はマサイの淡泊なセックスと、西洋人の濃厚な愛情表現とをくらべて、次のように言っている。

「男女関係の西洋化はジェラシーの西洋化に繋がる。」P154

我が国では70年以上も前から、精子提供による非配偶者間の人工授精が行われてきた。マサイ人と同じように父子間に血縁のない子供が産まれているが、家族として扱われてきた。男性器による精子の提供と、医者による精子の提供では何が違うのだろうか。

匠 雅音

第3回

2023.11.18

主 プラトン「饗宴」岩波文庫 1952年

副 奈良本辰也編：山本常朝「葉隠」中央公論：日本の名著17 1984年

副 顧蓉、葛金芳「宦官」徳間文庫 2000年

副 大谷幸三「ヒジュラに会う」ちくま文庫 1995年